



コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

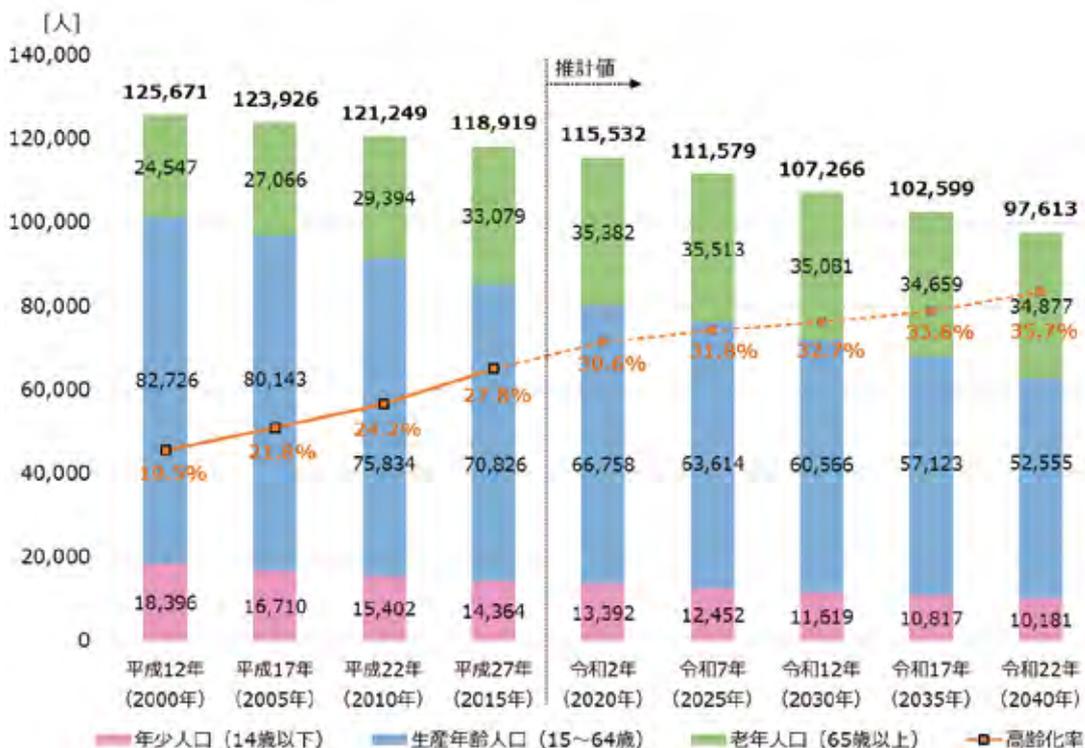
本年3月、人口減少、少子高齢化などの社会情勢の変化に応じた、持続可能な都市構造への転換を目的に「佐野市コンパクトシティ構想」を策定しました。この構想は、市全域を対象に、地域の特性を踏まえた拠点等を形成し、それを公共交通により結ぶことで、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指すものです。

佐野市はどうなるのか？

市の人口は、平成12(2000)年から平成27(2015)年にかけて減少し続けており、少子高齢化が進んでいます。また、今後の推計においても、令和22(2040)年時点で97,613人まで減少することが見込まれています。

このように人口減少が進行すると、市街地を中心として、スポンジの穴のように空き家や空き地が増加し、これまで一定の人口集積により支えられてきた生活に必要なサービスの維持が困難となり、店舗等の閉店やバス路線の減便・廃止など、市民生活に様々な影響を及ぼすことが懸念されます。

こうした課題に対応するため、医療・福祉、子育て支援、商業等の都市機能や居住等がまとまって立地(コンパクト化)した拠点を形成し、多世代が公共交通により拠点間を移動できる(ネットワーク化)「コンパクト・プラス・ネットワーク」により、便利で暮らしやすいまちづくりを進めていきます。



国勢調査における人口と高齢化率の推移(実績と推計)



コンパクト・プラス・ネットワークの骨格

「コンパクト・プラス・ネットワークの骨格」として、2種類の拠点・ゾーンを位置付け、自家用車以外の交通手段でも拠点への移動ができるように、拠点間やゾーンで公共交通の役割分担による交通体系を構築していきます。

● 中心拠点

都市機能が集積し、幹線道路網が構築され、かつ鉄道駅が存在するなど、各機能が有機的に連携した利便性の高い市街地。利便性の高い交通環境を有する拠点として、市全体を牽引するような持続的な発展が期待される佐野駅から佐野市駅周辺一帯を設定します。

● 地域拠点

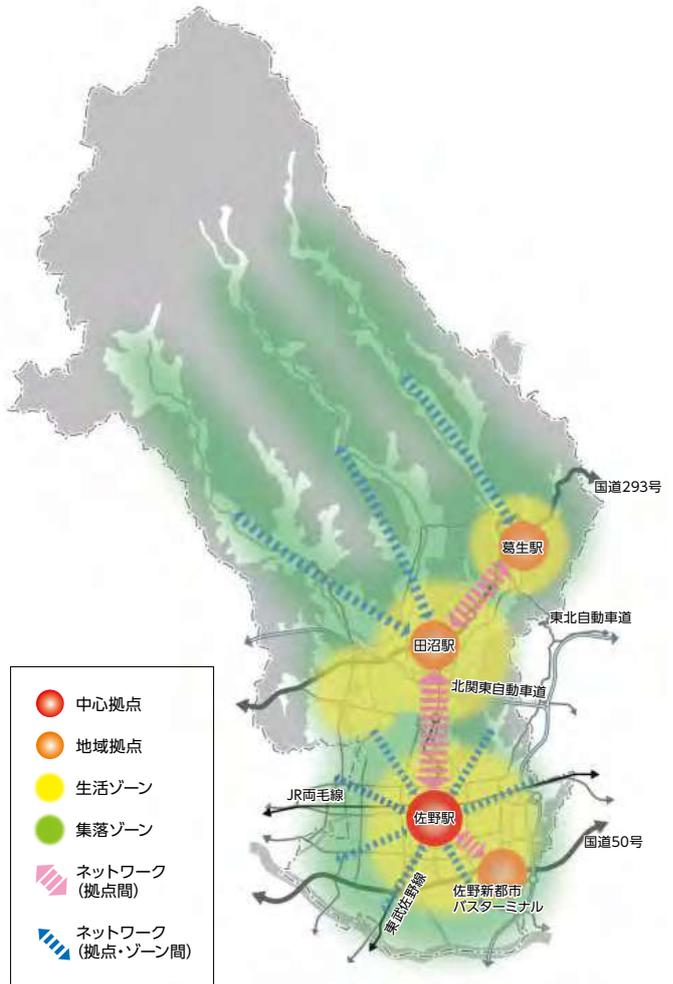
都市機能が比較的集積し、公共交通により中心拠点と連携可能な利便性のある市街地。田沼駅から田沼行政センター周辺一帯、葛生駅から葛生行政センター周辺一帯、佐野新都市を設定します。

● 生活ゾーン

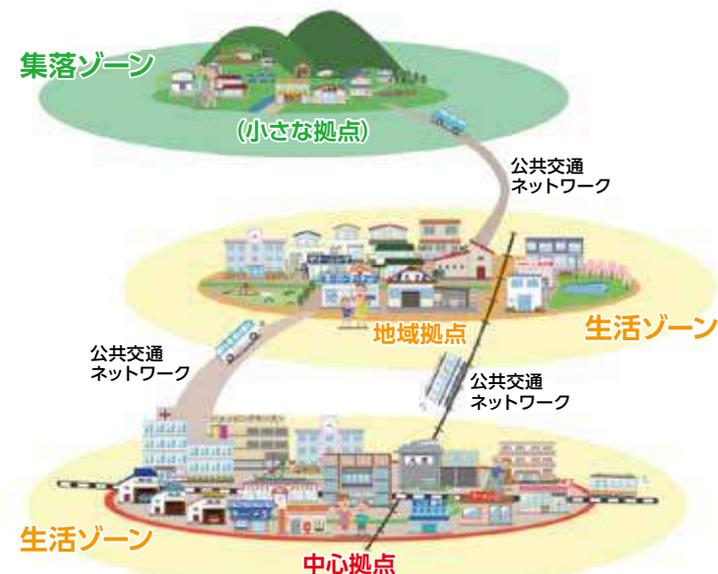
公共交通により中心・地域拠点の都市機能が比較的に活用できるエリア。中心・地域拠点の周辺等の市街地を設定します。

● 集落ゾーン

生活支援機能の集約・確保を図り、一定の生活環境を維持すべきと考えられるエリア。生活ゾーンの外側に位置する地域に加え、都市計画区域外にあたる中山間地域を設定します。



コンパクト・プラス・ネットワークが進むと



地域の特性に応じて、多様な都市機能が集積することで、市民生活の向上、さらには、「人・モノ・情報」の交流が活発になり、産業の活性化、地域価値の向上が見込まれます。

人口減少・高齢化が著しく進む中山間地域においては、必要に応じて地域で利用できる買い物や医療、コミュニティーセンター等の機能を持った「小さな拠点」の形成を推進することで、生活環境の維持が図られます。



佐野ブランドキャラクター
さのまる
©佐野市

■ 問合せ = 政策調整課 ☎(20)3000

